

委員会行政視察報告書

委員会名	民生福祉常任委員会			
活 動 委 員 名				
畑山親弘		舩甚英文		氣田量子
斉藤重美		堰野端展雄		豊川泰市
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
762,325 円		4,664 円	約 127,831 円	766,989 円
期 間 (年月日)	平成27年7月7日 ～ 平成27年7月9日 (2泊3日)			
視察事項	綾部市立病院の取り組みについて			
	空き家等の適正管理に関する条例について			
	協働たねまる活動補助金について			
視察先	京都府綾部市・福井県越前市			
内容及び成果				
<p>○ 綾部市立病院の取り組みについて</p> <p>当市立病院は新装開業以来不良債務が解消されないことから、病院改革検討委員会を設置して、市民が多数傍聴みまもる中、最終結論として公営企業法全面適用により病院首脳部の自主制による病院運営を期待、又一方では不良債務として累積している15億円余は一般会計で負担してきた。ところが、26年度決算会計見込みが1億円の赤字を生み出すような状況となっていることから、この度綾部市の病院視察研修することとなった。</p> <p>綾部市の病院運営は病棟数206床、職員数286人、医師40人の体制ながら、平成4年～21年度まで18年間黒字経営を続けてきた。看護体制基準看護「7」であるが、夜勤は変則交代制の申し送り体制を確立していた。病院経営も自立し、院内保育、病後児、病児保育体制も万全なものであった。</p> <p>しかし、26年度については診療単価の見直しと消費税3%増の関係で、2,000万円の欠けの赤字が見込まれるとのことであった。けれど、これら赤字も産科再開により黒字化されるものと考えます。</p> <p>○ 越前市の空き家条例並びに協働たねまる活動補助金について</p> <p>当市では空き家条例は制定されていないが、国の法律にもとづきながら施行することとなるが越前市での取り組みは容易ではなさそうだった。問題になることは固定資産税、相続、解体費などと考えられるが越前市での取り組みはこれからという現状であった。たねまる活動補助金は最高30万円で倍以上の活動実績や3年以上継続性が問われる。</p>				

委員会行政視察報告書

舛甚英文記

委員会名	民生福祉常任委員会		
活 動 委 員 名			
畑山親弘	舛甚英文	氣田量子	
斉藤重美	堰野端展雄	豊川泰市	
経 費 区 分			合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用
762,325	4,664 円	約 127,831 円	766,989 円
期 間 (年月日)	平成27年7月7日 ~ 平成27年7月9日 (2泊3日)		
視察事項	綾部市立病院の取り組みについて 空き家等の適正管理に関する条例について 協働たねまる活動補助金について		
視察先	京都府綾部市・福井県越前市		

内容及び成果

- ① 綾部市の病院は医療公社の形態であり、平成18年に指定管理者制度を導入している。このことから市職員と人手交流もありない現状ある。そのことと関係して「医療事務」等に対して専門職としての知識を継続的に更新して、国の医療政策に対応できるという利点、かき活かされていいると思う。このことは学ばなければならないと思う。
- ② 越前市の空き家条例については、行政としての動きが結果的に23件を指導し、5件が改善され補助金の利用も7件(2家族)あった。このことは見本例に評価できるが、難しい取り組みある。さらに「たねまる活動補助金」については、本市と似たところがあるが、大学生や高校生に広げて

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感も別途作成し添付してください。

またことは評価でき、今後の発展を見守りたい

民政福祉常任委員会行政視察報告書

氣田 量子

綾部市立病院について

管理運営は指定管理者である公益財団法人綾部市医療公社が行っている。これは、専門的な知識を必要とする病院事業を運営するにあたって大変有益なことだと思います。また、開院3年目から22年間黒字経営を行ってきた背景にはやはり、院長はじめ職員の皆様のチームワーク、看護師の勤務形態の取り組み、院内保育の充実、スタッフ確保と研修医の教育など試行錯誤の結果であると感じました。十和田市においても事務方など黒字になるまで頑張れる専任スタッフが運営すれば未来が明るくなるように思えます。

空き家等の適正管理に関する条例について

平成23年頃から空き家に関する相談が増えてきて、平成25年4月条例に向けて取り組み、9月に条例設置と国が動く前から市独自で条例を設置している事はとても先進的な考え方の出来る市なのだと感心しました。実態調査結果によりデータベース化（カルテ）を作成、空き家の総数を把握しており老朽危険度大・極大の空き家24件対して実質4件が自発的に解体、1件が補助制を使って解体と件数的には少ないが周りに迷惑になる空き家ではないとのこと。地域的に十和田市より件数が少ないように思いました。空き家は個人財産、解体費用の問題等この事がなかなか解決しない要因だと思います。平成27年度の取り組みとして県内相談窓口（のれん会）、管理請負業者（シルバー人材）などに委託しての管理を紹介するなど文書指導の実施、また、空き家等適正管理審議会の開催を行っていくそうです。

協働たねまる活動補助金について

まちづくりの主役は市民の皆さん。協働を進めると市民も行政も市民自治活動団体も元気になってずっと住み続けたい越前市になりましよ、と「たねまる補助事業」ガイドラインが2008年に策定されました。平成26年から高校生等学生団体も事業参加していて地域貢献を考える若者が増えることはとても未来が明るいと思いました。

越前市の議場を見学致しました。40年前のつくりと伺いましたが、壁が吸音効果のある木の感じがとても現代的に見えました。録音席も一段位低くなっていて質問席も設けてあり先進的でした。傍聴席が高すぎて議員が見えない感じが残念だと言っていました。

民生福祉常任委員会行政視察報告書

綾部市立病院の取組について

綾部市立病院の視察はとても有意義だったと思います、綾部市立病院では土曜日も診察しているとのことですので十和田市立病院も土曜日も診察出来ればと思っています。もうすでに高齢化の波が来ていると思います、また十和田市は高齢化農家が多く多少の病気など気にせず働いています、いつでも体調が悪いと思ったら安心できる病院が土曜日も開業している安心出来ると思います。

空き家等の適正管理に関する条例について

越前市の空き家等の適正管理に関する条例の概要について視察しました、国の案等を参考にして作成したそうです。

空き家の倒壊による危険、防犯、火災予防上の問題等が上げられますが、壊すにしても所有者の了解、取り壊し予算等難しい事ばかりです。

視察研修報告

十和田市議会議員 堰野端 展雄

1、綾部市

① 綾部市立病院の取り組みについて

運営形態は、公営企業法一部適用であり、管理運営は市が 100 パーセント出資し設立した公益財団法人綾部市医療公社が指定管理者となっている。ただ、公社は市長が理事長を務め、職員（病院職員）は非公務員ではあるが、綾部市職員の給与条例に準じているため、今後、給与費の増加が見込まれ、懸念材料の一つになっているとのことであった。

しかしながら、現在のところ、当初市一般会計からの繰入金額 3～4 億円であったものが、平成 15 年度より 2 億円。平成 17 年度からは 1 億 5 千万円の繰入金だけですんでいる。この健全経営、最大の要因は病床利用率（82.8%）及び外来入院患者比率（252.7%）が高いことによる高収益性の病院運営ができていることによるものだそうである。綾部市唯一の救急告示病院として、市内の救急搬送患者の 9 割以上を受け入れ、手術、分娩件数を多くこなし、土曜日診療もおこなっている。これは、医師、看護師等の確保対策として、臨床研修指定病院、大学教育指定病院となり、看護系 3 大学及び 2 看護専門学校の実習指定病院となっているため、医師・看護師等が充実していることによるものであろう。環境的に確かに恵まれている部分はあるが、それを最大限に活かしているからこそ、健全経営であると納得した。

また、一部を除いた市バス全便が病院に乗り入れし、ボランティアが患者支援を行うなど、様々な取り組みも健全経営の一役を担っているようであった。

2、越前市

① 空き家等の適正管理に関する条例について

越前市では、核家族化・単独世帯化・少子高齢化による空き家の増加と、空き家の放置による老朽化によって、家屋の倒壊による危険、防犯・火災予防上の問題が発生したため、実態調査をしたところ、平成 25 年度で空き家等の総数 1,431 軒。うち 24 軒は老朽化による危険度が大きまたは

極大と考えられるとの調査結果を踏まえ、条例制定にむけて動き出したとのこと。本年 5 月本格実施となった国の「空き家等対策の推進に関する特別措置法」より約 2 年早く取り組んだことには敬意を表したい。条例の内容も法律と比べても何ら遜色ないものとなっており、条例制定に尽力した関係者の皆様には、本当に頭が下がる思いである。

ただし、今後の課題は危険家屋等の解体撤去が決まった場合、行政としてどこまでやるのか。行政が行った場合、その費用を回収できるのか等の問題が出てくるだろうとのこと。この問題は、全国共通であり、法律ができたものの、今後、様々知恵を絞っていかなければならないことであると改めて思い知らされた。

② 協働たねまる活動補助金について

越前市は平成 16 年 9 月に「自治基本条例」を制定している（当市は平成 24 年 6 月）。その中で、「協働によるまちづくり」が必要不可欠とし、その協働に必要な環境をつくり出すための、一つの手段として活動補助事業を行っているとのこと。事業の成果として、市民活動のパワーアップ。新しい公共サービスの発見やきめ細やかなサービスの提供がなされるようになったとのこと。

課題としては、同じようなイベントが開催されることや、イベント同士の連携をコーディネートしていかなければならないこと。近年、実績件数が減ってきているようで、それは手続きの煩わしさにあるとのことであった。原因が分かったことにより今後、対策を練っていくとのこと。

そのような中で、平成 26 年度より、若い人たちから「協働」の意識づけをするべきとの考えのもと、学生団体を対象に加えたところ、昨年 7 件で本年は現時点で 11 件に増加しているとのこと。サイエンス教室や親子ロボット作成・体験教室。ご当地たこ焼きの開発等、内容は様々である。これは、ぜひ当市でも取り入れていきたいところである。

委員会行政視察報告書

委員会名	民生福祉常任委員会			
活 動 委 員 名				
畑山親弘		舩甚英文		氣田量子
斉藤重美		堰野端展雄		豊川泰市
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
762,325 円		4,664 円	約 127,831 円	766,989 円
期 間 (年月日)	平成27年7月7日 ～ 平成27年7月9日 (2泊3日)			
視察事項	綾部市立病院の取り組みについて			
	空き家等の適正管理に関する条例について			
	協働たねまる活動補助金について			
視察先	京都府綾部市・福井県越前市			
内容及び成果				
<p>○ 綾部市立病院のとりくみ</p> <p>本病院は当初、昭和2年10月の開院以来グンゼ病院（株式会社グンゼ）として地域に貢献されてきましたが平成2年8月綾部市が引き継ぐ形で財団法人綾部市立病院として管理運営してきました。運営は医療公社として評議員8人、監事3人、理事6人で構成し、当初は助役が理事長を務め、平成10年からは市長が就任し現在も引き継がれています。</p> <p>病院運営は鴻巣院長を中心に経営スタッフがまとまっており、長い間黒字経営を続けてきましたが、昨年の消費税引き上げと診療報酬の改定で赤字になったとのことであります。この赤字は2つの理由ばかりでなく産婦人科医師の減少に伴って発生したものと受けとれ、平成26年4月から自然分娩もとりあげられ、リハビリ、病棟、個室の増設、面接室、処置室の新設など各部署のリニューアルも認められ、また黒字になるものと認められた。</p> <p>何よりも院長はじめ全体のムードのよい病院であった。</p> <p>○ 越前市のとりくみ</p> <p>全国的に問題となっている空き家対策は、各自治体の緊急の課題である。国は法律を制定しているが越前市は既にその対策をしているところから、その条例による施行状況など実態を伺いました。しかしながら実務的には相続、金銭がらみ連絡先の確認など実際運用は厳しそうでありました。</p> <p>また、たねまる活動補助金は本市で行っている「元気な十和田市づくり市民活動支援事業」と同様の趣旨であった。補助団体は未だ少なく当市での活動がより活発であるように感じ、十和田市では頑張っているという印象でした。</p>				